

OB 通信

鳳 翩

復刊 23 号
=2018 年 12 月=



山口大学ワンダーフォーゲル部 OB 会
鳳翩会

もくじ

1	会長挨拶	鳳翔会会長 古谷 眞之助	2
2	2018年総会(東京)		3
	① 総会議事		
	② 収支計算書及び貸借対照表		
	③ 会計監査		
	④ 総会を終えて	東京支部事務局長 秋山高広	7
3	各支部活動報告		
	① 東京支部	東京支部事務局長 秋山高広	10
	② 九州支部	九州支部長 龍 純二	11
	③ 関西支部	関西支部長 池田 純	13
	④ 山口支部	山口支部長 古谷眞之助	14
4	同期会報告 鳥海山・月山 山行報告	東京支部	石津忠隆 17
5	会員エッセイ		
	① 猫に薬	九州支部	桑江保子 19
	② 上高地(徳澤園)で	関西支部	森脇まなみ 20
	③ 2018 高山登頂記	東京支部	恵谷 浩 22
	④ 白馬岳山本充二氏追悼登山	関西支部	上田 功 24
	⑤ 近況報告	山口支部	三國 彰 25
6	現役報告		
	① 夏合宿報告 縦走	理学部2年	三和大地 26
	② 夏合宿報告 ピストン組	工学部2年	井原エリカ 28
7	事務局長挨拶	経済学部4年	岡田陽介 29
8	OBの皆さまへのお願い		30
9	本部・支部役員名簿		31



【屋久島・縄文杉】

【お断り】 投稿いただいた原稿は、編集の都合上、文字、レイアウト等変更した部分があります。ご了承下さい

【表紙 国宝 瑠璃光寺五重塔 Illustrations by S.Furutani】

1. 会長挨拶

鳳翔会 会長 古谷眞之助

年の瀬を迎え、鳳翔会会員の皆様におかれましては、何かとお忙しい毎日かと拝察いたします。常日頃より、鳳翔会の運営に関しまして温かいご理解とご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。先々月、10月には東京支部の皆様の大変なご尽力で総会が盛大に開催されました。改めて御礼申し上げます。OB通信12月号(復刊23号)をお届けいたします。

今年より会長職に就任して以来、早くも1年が経過しようとしています。この間、特に真新しいことに取り組めたわけではありませんが、執行部役員を増やして各役員の負担軽減を図り、これまで現役生にお願いしていた会計事務をすべて執行部に移行し引き継ぎました。同時にまた、総会でも申した通り、ホームページをリニューアルし、経費削減にも鋭意努めてきたところです。

そして今年2018年は明治維新150年の節目の年でもありました。県外におられる方は特に意識されなかったかも知れませんが、明治維新にまつわる各種の記念講演会やイベントが県内各地で開催され、多くのお客様をお迎えすることができました。また山口市阿知須で開催された花博覧会「山口ゆめ花博」では予想を遥かに上回る136万人が来場されました。

来年2019年は、総会において決定された山口総会開催の年となります。それに向けて早くも年内には実行委員会を立ち上げます。八谷副会長(S54文)が実行委員長に就任し、実行委員のメンバーも現時点ではほぼ決定済みです。早急に開催日を決定し、各支部役員の皆さんを通じて、できるだけ早めに開催日をお知らせする予定ですので、是非、日程を確保いただき、東京総会以上の多くの皆様に、懐かしい友と久闊を除し、最近の山口市、山口大学の変貌ぶりを味わっていただきたいと思います。山口市の変貌ぶりと言えば、新山口駅北口の再開業事業が開始となり、亀山公園の改修、十朋亭の施設拡充も行われ、近く市庁舎も建替えられます。また農業試験場の防府市移転が正式決定し、その跡地利用に熱い関心が寄せられています。

ところで、前回のOB通信で、HPの有効活用を述べました。近況報告などの掲載も可能ですので、皆さんの意見交換の場にして欲しいというものでしたが、今やそれにはツイッターやブログの方が効果的との指摘がありました。確かに自らページを開きに行かなければならないという欠点がありますし、開いても更新記事がない場合もあります。その点では弱いかもかもしれませんが、最大の効果は、ここに過去のOB通信や部誌などが掲載され、新たなOB通信も随時追加掲載されていくことかと思えます。そこで、経費削減策として提案したいのですが、

「今後、OB通信については、HPを閲覧し、必要に応じてプリントアウトするので、以後、郵送は不要」という方がおられましたら、巻末の古谷のアドレスまでご連絡いただけないでしょうか。

ということで、よろしくご検討の上、ご連絡をお願い致します。また、総会の場において、HPのリニューアル後、一部のOB通信や部誌の欠落のご指摘と50周年記念誌の追加掲載のご要望がありました。これにつきましては鋭意修正追加に努力しているところですので、しばらくのご猶予をお願いしたいと思います。

さて、少し気が早いかもしれませんが、総会でも申し上げたように、再来年2020年は、新生OB会・鳳翔会の創立20周年に当たります。是非とも、九州での記念総会を盛り上げたいと考えています。引き続き、会長として微力ながら鳳翔会運営に努力してまいりますので、より一層のご指導、ご鞭撻をどうぞよろしくお願い申し上げます。それでは皆さま、どうぞ良い年をお迎え下さい。

【C-57 山口線・地福駅】



2. 2018年 鳳凰会総会(東京)

2018.10.20(土) 17:30

東京赤坂 ホテルアジア会館

今年度総会においては以下のような議案が提出され、討議の結果、それぞれの議案は賛成多数により承認されました。

第一号議案 2017年会計決算報告及び会計監査報告の件

別紙の「収支計算書」「貸借対照表」「振替受払通知票」「監査報告書」を参照願います。まず、収支計算書についてご報告いたします。【添付資料1 P4】

2017年1月1日から12月31日までの収支計算書は、収入の部合計が415,000円で、その内訳は2017年入会金費74,000円と2017年預り金会費振替341,000円です。支出の部は、OB通信発送費合計259,636円、OB総会関連133,975円、その他の経費117,902円で、支出の部合計は511,513円となります。従って2017年収支はマイナス96,513円となります。前年度繰り越し剰余金は531,905円であり、これに当年収支をマイナスすると翌年度繰り越し剰余金は435,392円となります。

次に、2017年12月31日現在の貸借対照表についてご報告いたします。【資料2 5P】

資産の期首残高は1,558,905円、現金の期首残高は0円、当年増加506,000円、当年減少511,513円で、現金の期末残高は0円となります。預金の期首残高は1,558,905円、当年入会金費等の増加506,000円、当年経費支出等による減少511,513円で、預金の期末残高は1,553,392円となります。預金の残高証明として、平成30年1月4日現在の広島貯金事務センター振替受払通知票の写しを添付しています。【資料3 P5】 負債の期首残高は1,027,000円、未払費用の期首残高は0円、当年増加511,513円、当年減少511,513円で、未払費用の期末残高は0円です。会費預り金の期首残高1,027,000円、当年会費入金506,000円、当年会費への振替415,000円であり、会費預り金の期末残高は1,118,000円となります。従って負債の期末残高は1,118,000円となります。なお、会費預り金1,118,000円の2018年以降の内訳は期末残高の通りとなります。剰余金の期首残高は531,905円、当年の収支はマイナス96,513円であり、剰余金の期末残高は435,392円となります。以上から、負債と剰余金を合計した期末残高は1,553,392円となります。

単年度赤字決算となっていますが、この主因はOB通信の外部印刷化によるものです。赤字慢性化回避のために、今年度は、印刷費の削減、非会員への発送大幅削減、旅費支給の中止等の対策をとっています。

次に監査報告をいたします。【資料4 P6】

平成30年2月12日、監査平野展康と斎藤昌彦は、平成29年の会計帳簿、経費支出伺兼経費支出報告書と会計決算報告書の提出を受け、会計監査をおこないました。その結果は監査報告書のとおりであり、当年の収支計算及び期末現在の財産状況は適正であることを確認しました。

以上の通り、2017年の会計決算報告及び監査報告をいたしますので、ご承認くださるようお願いいたします。

第二号議案 2018年事業報告の件

2018年はOB会会則第三章の規定に基づき、1月から10月まで次の事業を行って参りました。

- 1) OB総会の開催 10月20日(土)~21日(日)
- 2) 第一回OB通信の発行(8月12日 発送部数236部)
- 3) 山口大学ワンダーフォーゲル部に対する援助
追いコン激励、新入生勧誘及び海浜合宿支援、事務局報酬、現役支援金、海浜合宿支援金等102,751円
ただし、事務局長旅費補助は含まず。詳細【添付資料5 P6】
- 4) 役員会等

会計監査会 2月12日(月) 山口市吉敷地域交流センター
 役員会 3回(4月、7月、8月) やまぐち県民活動支援センター他
 また、今後予定している事業は次のとおりです。

- 1) 第二回OB通信及び会員名簿の発行 12月中旬発送予定
 - 2) 鳳翔会HPの活性化と有効活用、OB通信のメール送信への移行検討、メールリングリスト活用の検討
 - 3) 経費削減への積極的取組、会費未納付者への対応、可能であればOB通信への広告掲載
 - 4) 同期世話人のいない卒年に対し、個別に就任要請を行う
- 以上のとおり2018年の事業を報告いたしますので、ご承認くださるようお願いいたします。

第三号議案 2019年総会開催地の件

2019年総会開催は「山口支部」で実施することを提案します。ご承認くださるようお願いいたします。
 以上

【添付資料1】収支計算書

収支計算書(2017年1月1日~12月31日)

鳳翔会

(単位:円)

		比率	
収入の部			
	2017年入金会費	74,000	
	2017年預り金振替	341,000	
	収入の部合計	415,000	100%
支出の部			
	ラベル、用紙、封筒、印刷代	59,638	
	OB総会案内葉書代	12,896	
	郵送料	66,445	
	OB通信発送協力費	12,000	
	2017年OB通信8月号関連小計	150,979	36.4%
	ラベル、用紙、封筒、印刷代	55,627	
	郵送料	45,830	
	OB通信発送協力費	7,200	
	2017年OB通信12月号関連小計	108,657	26.2%
	OB総会役員参加助成費	22,495	
	OB総会現役参加助成費	81,480	
	OB総会運営費	30,000	
	OB総会関連小計	133,975	32.3%
	ホームページ運営費	5,648	
	追いコン差し入れ(酒・花)	14,178	
	新入生勧誘助成費	50,000	
	海浜合宿助成費(萩)	30,000	
	事務用品費	810	
	通信費	410	
	事務局費	14,800	
	雑費	2,056	
	その他経費小計	117,902	28.4%
	支出の部合計	511,513	123.3%
収支			
	2017年収支	-96,513	-23.3%
剰余金			
	前年度繰り越し	531,905	
	翌年度繰り越し	435,392	

注)

収入の部 特記事項なし

支出の部 OB通信発送協力費は、現役部員に支払いしているものです。

【添付資料2】貸借対照表

貸借対照表(2017年 12月31日現在)

鳳融会

(単位：円)

	科 目	期首残高	当 年		期末残高
			増加	減少	
資産の部	現金	0	503,809	503,809	0
	預金				
	広島郵便貯金 ¹⁾	1,558,905	506,000	511,513	1,553,392
	預金計	1,558,905	506,000	511,513	1,553,392
	未収入金	0	0	0	0
資産合計		1,558,905	1,009,809	1,015,322	1,553,392
負債の部	未払費用	0	511,513	511,513	0
	会費預り金				
	2017年	341,000	74,000	415,000	0
	2018年	241,000	131,000	0	372,000
	2019年	162,000	98,000	0	260,000
	2020年	102,000	72,000	0	174,000
	2021年	69,000	70,000	0	139,000
	2022年	30,000	43,000	0	73,000
	2023年	28,000	4,000	0	32,000
	2024年	22,000	4,000	0	26,000
	2025年	14,000	4,000	0	18,000
	2026年	4,000	4,000	0	8,000
	2027年	2,000	2,000	0	4,000
	2028年	2,000	0	0	2,000
	2029年	2,000	0	0	2,000
	2030年	2,000	0	0	2,000
	2031年	2,000	0	0	2,000
	2032年	2,000	0	0	2,000
	2033年	2,000	0	0	2,000
	会費預り金計	1,027,000	506,000	415,000	1,118,000
負債合計		1,027,000	1,017,513	926,513	1,118,000
剰余金	剰余金	531,905	0	96,513	435,392
負債及び剰余金合計		1,558,905	1,017,513	1,023,026	1,553,392

注) 会費預り金の2017年の残高には、非会員の方から寄付をいただいたみなし会費分が合計6,000円入っています。

【添付資料3】振替受払通知書

振替受払通知書 01530-0- 16050 平成30年 1月 4日
広島貯金事務センター

通知番号及び趣意	47号	1,553,392円
払込金(一般)	<input type="checkbox"/>	
払込金(新帳票)	1	10,000
払込金(DT)		
払込金(MT)		
振替受入れ		
公金払込み		
自動払込み		
その他受入金		
払込金		
振替受入れ		
現金払出し		
振替払出し		
簡易払		
その他払出し		
現金払出し		
振替払出し		
加入者即時払		
小切手払渡し		
料 金		
現在高		1,563,392

料 金 内 訳		
払込料金	円	
払出料金		
振替料金		
その他料金		
小 切 手 番 号		
小 切 手 支 払 保 証		
円		
明細番号	始番号	終番号
電 信 受		
電 信 払		

2



【添付資料4】 監査報告書

監査報告書

1. 監査実施年月日

平成 30 年 2 月 12 日

2. 監査の場所

山口市吉敷地域交流センター

3. 監査に立ち会った者

鳳翺会前副会長	田中秀平
鳳翺会会長	古谷真之助
鳳翺会事務局長	岡田陽介

4. 監査斎藤昌彦並びに平野展康は、鳳翺会平成 29 年収支決算

書の提出を受け、各種帳簿、預金通帳、証拠書類等について、
監査を行った結果、適正に処理されていることを認めた。

平成 30 年 2 月 12 日

鳳翺会

監査 平野展康 

齋藤昌彦 

【添付資料5】 事業報告関連

『現役に対する援助内訳』

2/10 追いコン	12,751 円	
2/20 事務局報酬	10,000 円	
2/20 現役支援金	50,000 円	
7/18 海浜合宿支援金	30,000 円	合計 102,751 円

2018年度 OB 総会を終えて

東京支部 事務局長 秋山高弘

10月20(土)、21日(日)に行われたOB総会が無事終了しました。遠路お集まりいただいた皆様、そして準備いただいた東京支部の皆様にお礼申し上げます。以下に、総会の状況を報告します。

10月20日(土)

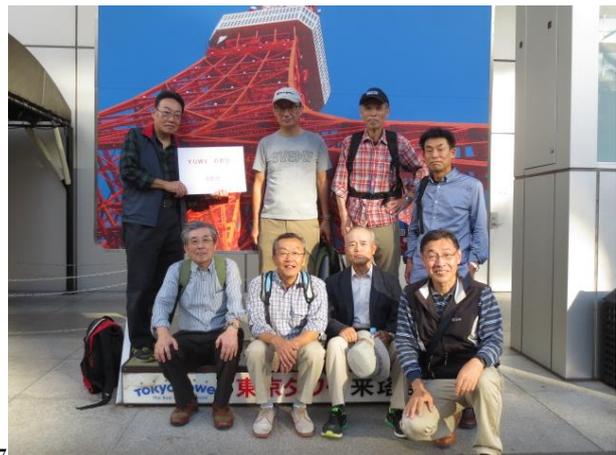
Aプラン (皇居一般見学)

12:30 18名が東京駅に集合。桔梗門に移動し受付、身分証の確認を受ける。内部に入り、集合所にて簡単な説明を受けた後、英語、中国語、日本語それぞれのグループに分かれ、時差で出発。総勢300名ぐらいだが外国人観光客が多い。富士見櫓を見つ進み、宮内庁庁舎前を通り、長和殿へと到る。ここはお正月の一般参賀でおなじみの場所だ。天皇陛下はもっと高いところから手を振っておられるとばかり思っていたが、意外にも目線が合いそうぐらいに低い。二重橋を皇居側から眺め、Uターン。お天気にも恵まれ気持ちが良い。来年になり天皇の退位が近づくと、このツアーも人が押し寄せるのではないだろうか。桔梗門にて写真撮影後、日比谷公園(ここは昔長州藩上屋敷のあったところ)まで散策し、地下鉄で乃木坂駅へ。近くにある乃木神社にお参りした後、ホテルへと向かう。



Bプラン (愛宕神社と東京タワー散策)

13:00 ホテルに集合、荷物を預け8名で出発。まず乃木神社に向かい、その後赤坂ミッドタウン檜公園へ(ここは長州藩下屋敷のあったところ)。六本木を通過して愛宕神社へと向かう。出世の階段(将軍徳川家光の前で、この急階段を馬で駆け上った曲垣平九郎が出世したという故事がある)を登り、境内にある東京23区最高峰の三角点(25,7米)を攻略。その後東京タワーへ向かい、こちらも外階段を使って展望デッキへと登山(高度差140米、600段)。全員が10分で登りきり、記憶に残る思い出となった。お天気にも恵まれ、素晴らしい景色だ。帰りは芝の増上寺(将軍家菩提寺)にお参りし、大門駅から地下鉄でホテルへと向かう。



総会

物故者に黙祷し、古谷会長の挨拶の後、城戸支部長を議長に選出し、議事に入る。(議事内容は別頁ご参照)

来年度総会は山口にて開催(山口支部 八谷さんより挨拶)



記念写真撮影



懇親会

古谷会長挨拶、城戸東京支部長より歓迎挨拶と乾杯のご発声で懇親会開始、司会は堀さん。会場となったホテルレストランは借切りのため、ゆっくりと歓談することが出来ました。また、お酒持ち込み可だったので、いただいた良いお酒も堪能することが出来ました。お持ちいただいた、加藤さん、吉永さん、福永さん、城戸さん、村上さん、有難うございました。各支部の活動報告のあと、A(高田さん)、B(濱野さん) 両エンジョイプランリーダーより、プラン実施報告。明日に予定のCプランリーダーの深田さんからは、見所の紹介と参加の呼びかけがありました。懐かしい山の歌は、上田先輩の歌唱指導の下で実施。久しぶりに声を張り上げました。高田副支部長による中締め後は、そのまま二次会に突入。21時お開きとなりました。



10月21日(日)

朝食後各自自由解散。

Cプラン (浜離宮、隅田川クルーズ、浅草)

9時にホテルロビーに集合し、17名で出発。お天気も良く、昨日の呼びかけが効いたのか7名の増員。地下鉄で汐留駅から浜離宮公園へと向かう。ここは海水を引き入れた池と鴨場を今に伝える徳川将軍家の庭園だ。しばし散策の後、離宮内にある水上バス発着場から船に乗り込み隅田川を浅草へと向かう。お天気が良い為か、下見の時と違って、乗客が多い。いくつもの橋をくぐり約一時間かけて浅草へ到着。浅草も外国人観光客が多く、ごった返している。雷門で写真をとるスペースにも困る状況下、なんとか場所を確保し記念撮影。皆さんに浅草マップを配布し名残を惜しみつつ解散。



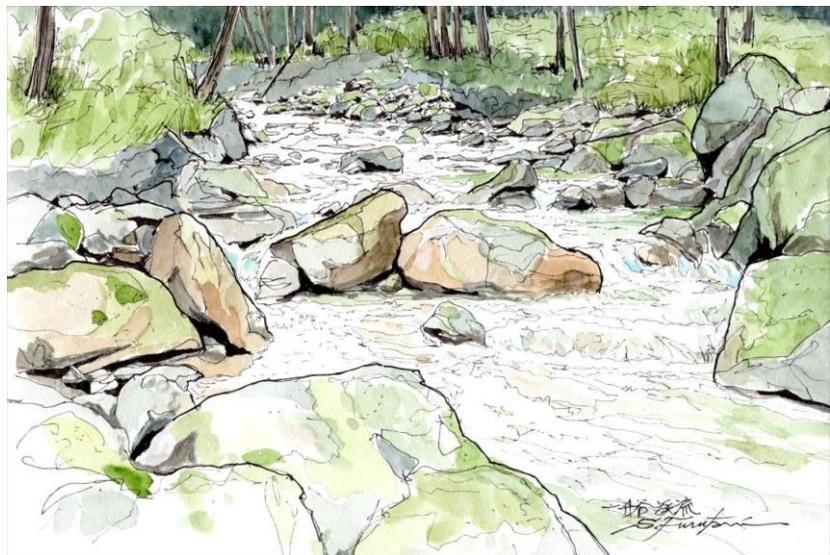
総会を終えて

皆様のご協力の下、無事に総会を終えることが出来、今はほっとしています。会場となりましたホテルのスタッフの方からも、以下の言葉を頂戴しました。

「皆さんが再会を喜び、楽しい時間を過ごされているのを間近に感じ、今回お手伝いさせていただいた意義を感じることができました。」

「それにしても、これだけお酒を飲まれた団体様は初めてです。」

以上



【萩住還 一升谷】

3. 各支部活動報告

恒例により、各支部の支部活動状況について報告いただきました。

東京支部活動報告（H30.8～H30.12）

事務局長 秋山高弘

1. 暑気払い 9月1日（土） 新宿かなえ（下に写真）
28名が集まり懇親を深めました。また乾杯の後（酔っ払わないうちに）、10月の総会の打ち合わせを行い、エンジョイプランや当日の担当者を決めました。
2. Aプラン下見 9月29日（土） 皇居一般見学
高田リーダーはじめ8名が集まり、皇居見学を体験しました。
生憎土砂降りに近い雨でしたが、本番当日を想定し検討を行いました。
終了後は、近くのおしゃれなカフェで簡単な打ち上げを行いました。
3. Bプラン下見 10月6日（土） 東京タワーと愛宕神社
前週とは打って変わり、日差しが照りつける中、濱野リーダーはじめ6名が集まり、当日を想定して歩いてみました。東京タワーにも歩いて登り、かかる時間や苦しさを実感しました。浜松町で解散後、皆で蕎麦屋に飛び込みビールでのどを潤しました。
4. Cプラン下見 10月13日（土） 浜離宮公園と隅田川クルーズ・浅草
深田リーダーはじめ5名が集まり、本番当日の時刻にコースの下見を行いました。少し肌寒い日であったこともあり、観光客が少なく、順調に下見を終えました。
浅草といえばアサヒビール、本社上層階の眺めの良いレストランで打ち上げのビールが進みました。
5. OB総会本番 10月20（土）・21日（日） ホテルアジア会館

このように、支部では秋に入って一気にOB総会の準備にまい進する状況が続きました。日ごろ飲み会や山行で顔を合わせることが多く、その結束力の高さが、総会当日皆で協力し、臨機応変に対応できた原因かと思えます。

今回は、2月2日（土）新宿にて「しゃぶしゃぶ」新年会の予定です。



7月28日(土) 懇親会(暑気払い)

出席者 11名: 永沼、秋山、岩本、山本、桑江、笹田、
光山、池田、富田、天野、龍
場所 天神 御膳屋」にて開催
内容 これまでの活動報告と今後の活動予定を確認



9月22日(土) 日帰り山行:立石山(209m)

参加者5名 : 永沼、秋山、中村、清家、龍
糸島の海水浴場から登り始める珍しい山。予定では4名のはずが、中村さんが途中参加するハプニングでさらに楽しい山行になった。



岩場を登っている途中で武富さんから電話があり、中村さんが頂上で待っているので合流するように連絡があった。15分後に無事合流。中村さんは前原からバスで来て、バス停から登山口と反対方向の駐車場に行ってしまったらしい。近くの畑で作業されている人に立石山登山口を聞いたら、家に帰るところなので登山口まで送って行ってくれるとのこと。頂上すぐ近くの峠まで送ってもらったそうである。

10月13日(土) 日帰り山行:平尾台(貫山711m)

参加者6名: 永沼、秋山、山本、前田、池田、龍
永沼さん、秋山さん、山本さんは高速バスで中谷まで、中谷からは前田さんの車でピックアップ、池田さんは北九州のご実家から車で参加。私は久留米から高速で直接参加。今日は秋晴れの爽やかな天気。ススキの穂が出そろった羊群原の中を歩く。



11月3日(土) デイキャンプ：今宿野外活動センター

参加者6名：永沼、秋山、武富、権藤、富田、龍

今年も今宿野外活動センターでデイキャンプをおこなった。11/3 文化の日は晴れの特異日、紅葉の始まった木々に囲まれた第二営火場に集合する。近くの堀ちゃん牧場の最高級のお肉をいただく。これでもか、というほど食べる。帰りには今年も、武富農園でいも掘りをさせていただく。



11月17日(土) 日帰り山行：九千部山

参加者5名：永沼、秋山、清家、山本、龍

今年最後の日帰り山行は、那珂川市と鳥栖市にまたがる九千部山(847.9m)である。佐賀県側の御手洗(おちょうず)の滝から出発し、石谷山(754m)に登り、九千部山を往復するコース。石谷山から九千部山への縦走路はなだらかな尾根道で、美しいブナやカエデの自然林が残っている。お天気が心配であったが、朝から回復する予報になり一安心。登るにつれ紅葉した木々が現れる。落ち葉の縦走路は気持ちのいい散歩道であるが、歩行距離約12km、歩数24,000歩になり、解散したのは16:30になった。良く歩きました。皆さん、お疲れさまでした。



2018年関西支部活動紹介

関西支部 支部長 池田 純

関西支部2018年後半の活動状況をご報告します。

今年も押し詰まった12月1日に、関西支部の活動として甲賀市にある櫛野寺(らくやし)に行ってみました。このお寺の御本尊十一面観音菩薩は、33年に一度開扉される秘仏ですが、たまたま今年がその年にあたりということで、これはいかねばとコースに選びました。まずはJR草津線の甲賀駅に皆さん(古田さん、秋山さん、田村さんは後程合流)集合。駅では忍者のトリックアートが我々を出迎えてくれます。



草津線はもうすぐ130年になろうかという古い路線ですが何分田舎で昼間は貴生川以南は1時間1本なので大阪方面から来られた方にはご苦労かけました。切符の値段段から判断するに大阪、名古屋の中間ぐらいの距離になるようです。



さて出発県道を渡り櫛野寺川沿いの小道を上流に向けて歩き出します。周辺は田園地帯ですのでこの川は農業用水として活用されておりところどころ堰が設けられているため流れは穏やかで小魚が泳いでいるのが見られます。静かな竹林に囲まれた道を歩くこと30分休憩場所の鹿深夢の森公園に到着。ここは広大な芝生があり、図書館や、屋内屋外遊具施設もそろっているので子供を遊ばせるには良いところでたくさん家族連れが来ていました。以前は温泉施設もあったのですが残念ながら今は閉鎖されました。昼食を済ませ再び川筋の道を歩きます。30分ぐらい歩くと本日の目的地櫛野寺に到着しました。希少なイベントなのでたくさんの方が来られていますが、なにせ交通の便が悪いところなので車で来場者が多いようです。申し訳ないですが場内撮影禁止なので本尊の様子や詳細情報はネットで調べてください。ご本尊は3mの座像です。2年前上野の博物館に出張されていたようでなかなかお忙しそうです。とにかく圧倒されました。



参拝を済ませ、次は油日神社に向かいます。古びたなかなか渋い神社でした。油日岳方面の登山道がありこれはまたいつか行こうということで最後は油日駅から乗車、草津駅(草津温泉とは関係ありません)にて打ち上げ、楽しい一日でした。



山口支部では春には登山、秋は1泊で島巡りというイベントが定着しつつありますが、今年の秋のイベントは、3つの「本州最西端」を巡る旅となりました。フリープラン②を選択すれば実に4つ。すなわち、

- ① 最西端の岬 毘沙の鼻
- ② 最西端の「富士」 吉母富士
- ③ 最西端の温泉 津波敷温泉
- ④ 最西端の島 蓋井島

です。参加者は、

- S49 教育 石川忠 (敬称略)
- S52 経済 古谷眞之助
- S52 文理 古谷恵子
- S54 文理 八谷孝徳
- S55 工 三國彰
- S57 教育 徳田宏子

の6名。今回の企画も地元下関在住の石川さんと徳田さんに立案手配いただきました。2016年に春秋のイベントを開催して以来8回目の春秋企画となります。

11月10日午後1時半、毘沙の鼻の駐車場に集合し、最西端の岬から、眼下に広がる響灘と明日渡る蓋井島、そしてこれから登る背後の「吉母富士」309mを見上げました。今日明日の二日とも秋晴れ100%保証で、心も踊ります。この岬からは運が良ければ、

遠く玄界灘の世界遺産「沖ノ島」が望めるとのことなのですが、少し曇っていて見えず、残念でした。登山口に移動して登山開始。吉母富士は今年2月に登山道が整備されたばかりで、かなりの急登ですが、登山口から55分で山頂に到着しました。まずは記念の三角点揃い踏みです。山頂からは素晴らしい眺望が広がっ





ていました。山頂からの風景をご覧ください。素晴らしい景色を友達と分かち合いたいと皆さんがスマホで写真を送信しているところです。

下山後、本日の宿津波敷温泉へ。宿の前ではちょうど夕日が響灘に沈んでいくところで、全員その美しさにうっとりしました。この日の楽しみは、山陰ならではの海鮮料理です。山の疲れを温泉で洗い落としさっぱりして宴会に突入です。アワビのバター焼き、イセエビ、サザエ、鮮魚のお刺身、海老の塩焼、フグの唐揚げと申し分なし。一同大満足！



お酒が進み、話は来年の総会開催について、すでに実行委員長に決まっている八谷さんが来年の構想について一席ぶつと、色々な企画案や意見も出されて、すでに山口総会開催モードです。もっとも、その前にOB通信作成と発送作業を12月には行わねばなりません。また、その時までには開催日、開催要領の骨子を実行委員長が作ってくるといふことで話は決まり、食後部屋に戻って二次会も開催しました。



ということで6時半からの宴会は午後11時半過ぎまで続いたのでした。翌日も快晴です。二日目は、所用の控えている石川さんは早々に帰宅、そして八谷・三國両君はフリープラン①を選択して、今一番人気の道の駅「北浦街道ほうほく」へ。徳田さんと古谷夫婦はフリープラン②を選択して、響灘に浮かぶ蓋井島へ。



ここからは蓋井島レポートです。蓋井島航路は、吉見発9時、蓋井島発15時の1往復のみ。



島までは40分。37数世帯、92人が住んでいる由。まず「山島の小道」を辿って灯台へ。そこからさらに登って金毘羅山山頂へ。ここまではかなりの急登で、足腰の衰えを痛感させられました。しかし、山頂神社からの眺めは抜群でした。北北西64kmのところに見えるはずの沖ノ島は、残念ながら今日も見えませんでした。山から下りる途中で、お婆さんが路傍で助けを求めています。聞けば、電動車が砂に埋まって動かなくなり、ここまで歩いて下ってきたが疲れて歩けなくなったとのこと。



と。早速現場まで行き、3人でスタックした電動車を救出。このお婆さんは15時前に港で我々を待たれていて、お礼にとサツマイモを手渡され、有難く頂戴することにしました。何度も何度もお礼を言われて恐縮したほどです。過疎の島かと思いきや、最近若い人が増えているのだとか。釣果の大きなクエを港の生け簀で見せてくれた漁師さんも30代。来週末は島の大切な祭(国の重要有形民俗文化財「山の神」とのこと)で、男衆に交じって、若奥さんや子供たちも準備に忙しそうでした。これに合わせて小学校で開催される学芸会や感謝祭のお知らせポスターが港に貼ってありました。唯一のお店で買い物し、次回訪問のために民宿を尋ねて、親切な女将さんから島の情報などもお聞きした次第です。珍しいエミューの飼育場や生徒7名の小学校、美しい海岸線も見て歩いて、無事15時発便に乗船したのでした。(2018.11.12 記)

4. 同期会報告 鳥海山・月山 山行報告 (1975 年卒、同期会)

東京支部・工学部卒 石津忠隆

同期会は毎年行っていて今回で 11 回目となりますが、私が参加するのは 4 回目となります。途中からの参加になりますが声を掛けてくれた皆さんに感謝しています。

さて、我々 60 半ばを過ぎた者にとっては、①その土地の観光、②山行、③温泉というパターンが定着しているように思えます。今回、異例のコースを進んだ台風 12 号が西日本を直撃している中、東北の山行となりました。

参加者は、女性：前原、中澤、男性：本園、伊藤、金子、原口、宮原 (途中参加)、石津の 8 名です。

1. 2018 年 7 月 28 日 (土) 天気：小雨／晴

仙台空港国内線到着ロビー「レンタカー」カウンター前に集合 (10:00) ということで、九州組、関西組、東京組がそれぞれ予定通り顔を合わせた。同期会としては 1 年ぶりです。全員、外見上大きな変化はないようだ。レンタカー 1 台にて、小雨の中伊藤君の運転で仙台空港を出発 (10:20)。太平洋側から日本海側に横断することになり、約 230Km のドライブだ。東北自動車道から山形自動車道を通り、山形県に入ると今までの小雨が急に晴れてきて“心も弾む”ようだ。賽河江 SA で昼食 (11:30~12:30)。気温は 30℃と山形県でも暑い。午後になると 33℃の表示があった。

本日の宿「大平山荘」に到着 (15:00) した後、時間があったので更に上方の鉾立登山口「鉾立ビジターセンター」駐車場まで行った。ここからは、酒田市、由利本庄市、秋田市側の日本海、更に男鹿半島まで見る事ができた。海岸線には風車が数十基見える。

秋田県は国内で北海道、青森県に次ぐ風車 (風力発電所) の導入基数が多い所で、200 基以上あり再生可能エネルギーに寄与しているが、ヨーロッパなどのように主力エネルギーにはほど遠い。風任せではあるが、1 基出力 1,500 kW の風車で約 730 世帯の電力を賄える計算になるようだ。

駐車場には 1 時間ばかりいて、大平山荘に引き返した。翌日の山行のために早目の眠りについた。

2. 2018 年 7 月 29 日 (日) 天気：晴 (天気良好なれど風強し)

大平山荘 8:00 → 8:10 鉾立登山口 8:20 → 8:30 展望台 → 9:55 賽ノ河原 → 10:40 御浜小屋 / 昼食 13:00 → 13:30 賽ノ河原 → 14:30 展望台 → 14:40 鉾立登山口

大平山荘を出発し、鉾立登山口に駐車。全員身体が固くなっていると思われるので、宮園君の掛け声で十分に準備体操をし、鳥海山 (2,236m) を目指して登山開始。10 分で展望台に到着した。小学生の団体と抜きつ抜かれつしながら 2 本の休憩をとってやっと賽ノ河原に到着した。小学生はここまでらしい。台風 12 号の影響があり尾根から斜面を吹き降りる強風で帽子が飛びそうになる。ニッコウキスゲやチョウカイアザミの高山植物を見ながら更に登る。まだ残雪がありその側を通りながら鳥ノ海御浜神社、御浜小屋に到着した。



山頂御室小屋から下りてきた人の話では、強風のため頂上に行くことはできないだろう。小屋から通常 2 時間のところを這うようにして 3 時間掛けて下りてきた、とのこと。御浜小屋から鳥海湖を見ようと尾根に出た途端、強風・突風にあおられて倒れそうになる。登山者の中には、メガネや帽子を飛ばされた人もいた。やむなく御浜小屋で休憩・昼食にし、14 時までには風が収まらなければ頂上行きは中止にすることにしていた。小屋の主人が休憩者は 13 時までということで、結局、本日の山頂御室小屋宿泊はキャンセルし下山に決定。小屋の壁には、「気力、体力&判断力、登山は全て自己責任で！」の張り紙があった。

御浜小屋を下山し賽ノ河原を通過すると、妙齢の 12 名のメツチェンパーティとすれ違ふ。彼女たちも御浜小屋までか。展望台を過ぎると 10 分で鉾立登山口に到着した。御室小屋宿泊をキャンセルしたため、新たに今夜の宿探しをして、鳥海温泉「遊楽里」に決定。

【本日の歩行数約 13,440 歩】



3. 2018年7月30日(月) 天気：快晴(日中30℃)

本来は鳥海山(2,236m) 御室小屋から下山の筈であったが、本日は「シニア7名による酒田市ぶらぶら旅」となった。遊樂里を出発(9:45)して、丸池様(国指定史跡で周囲を樹木が囲い、エメラルドグリーンの水面を見せてくれている)、牛渡川(鳥海山の湧水を水源とする川で、清流中に梅花藻が花を咲かせている)、本間家旧本邸(幕府の巡見使宿舎を新築し、庄内藩主酒井家に献上した武家屋敷：9/29NHK「プラタモリ」で放映された)、海鮮市場(原口君と中澤さんは岩ガキを堪能したようだ。明日の活力源になったかも)などを観光した。

鳥海山は、山形県・秋田県にまたがり、出羽富士、秋田富士とも呼ばれるが、外輪山最高点で三角点のある七高山(2,229m)を鳥海山山頂とする説がある。

遊樂里で鳥海山を見渡せるベストスポットを教えてもらい記念撮影とした。(登れなかったのは残念！)

鳥海山の景色を満喫したあと、我々一行は、本日の宿泊地月山志津温泉「五色亭」を目指す。五色亭に到着した時にはタイミング良く宮原君がバスで来て合流した。五色亭の前は五色沼で周囲は散策路になっており、2階からは月山の山並みが見渡せた。今晚は山菜料理とともに一杯！

【本日の歩行数約4,250歩】



4. 2018年7月31日(火) 天気：快晴

五色亭 7:30 → 7:50 姥沢駐車場 8:00 → 8:05 登山口 → 8:15 ペアリフト下駅 8:20 → 8:35 ペアリフト上駅 8:40 → 9:10 姥ヶ岳 9:20 → 9:30 金姥 → 9:55 牛首 → 11:15 月山神社(月山山頂) / 昼食 11:55 → 12:30 牛首 12:40 → 13:35 ペアリフト上駅 → 13:50 ペアリフト下駅 → 14:05 駐車場

五色亭を出発し、途中で金子君が宿にメガネを忘れたと言って一端引き返した(10分のロス)。姥沢駐車場に到着し登山準備をした後、登山口からペアリフト下駅に着き、リフトにて15分掛けてペアリフト上駅に向かう。リフトでも使えるものは使っている。駅を降りてウグイスの声を聞きながら、木道の階段を行くと30分で姥ヶ岳(1,670m)に到着した。良く晴れて、姥ヶ岳からは南に朝日連峰を見ることができた。休憩後、宮原君が2名の女性(おばさん?)に周囲の山の案内をしているのを差し置いて先を急ぐ。

出羽三山のひとつ湯殿山(1,500m)からの道が左側から合流する金姥を過ぎ、ペアリフト上駅からの道が右側から合流する牛首を通過する。残雪でスキーをしている人を見ながら登る。2本の休憩を入れてようやく月山の最高点・月山神社(1,984m)に到着した。神社入口で「登拝認定書」(あなたは、標高1,984mの出羽三山の主峰月山を踏破し月山頂上鎮座、月山神社本宮を参拝されました。其の健脚を称え、ここに認定書を授与します。)を受けて参拝した。神社内は撮影禁止になっている。月山周囲にはお花畑が広がっていた。



月山には、松尾芭蕉が詠んだ句がある。

「雲の峯 幾つ崩れて 月の山」(あの入道雲の峰がいくつ崩れ、築き上げたのが月山なのであろうか)

月山では、生憎ガスっていて展望は良くなかった。40分の昼食後下山とする。下山中30m先は見えないほど周囲は牛首に着くまでガスっていた。牛首から左側の道を通って、ペアリフト上駅に着く。リフトにより15分でペアリフト下駅、更に15分で駐車場に到着した。

【本日の歩行数約14,800歩】

ここで宮原君(バスに乗車)と別れ、駐車場を出発して昨日泊まった五色亭で一風呂浴びた後、仙台空港へと帰路に着いた。仙台空港には18時に到着、解散。ドライバーの伊藤君有難う。皆さん、お疲れ様でした。次回も元気に会いましょう。



5. エッセイ

猫に薬

九州支部 昭和54年文理卒 桑江 保子

その猫の名前はクロ。今 18 歳である。実家で母が飼っていた。もっとカワイイ名前にすればいいと思うが、家に来ていた野良猫が 2000 年秋に産んだ 5、6 匹のうちの一匹で、他の猫と区別するだけの名前だった。家に入れることになり、母は「呼びやすいからクロでいい」と言ってクロになった。背中黒おなか白の黒白猫である。

母は癌と分かり入院することになった時、病院で「あんた、クロ死なせんとってよ」と言った。老人の一人暮らしにぬくもりを運んでくれたクロだったのだろう。以来、この猫を世話するのは私の役目になった。

5 年半前、母が亡くなり実家は無人になった。無人の古い一軒家に猫一匹。すぐに死ぬだろうと思っていたが、暑い夏も凍るような冬も案外耐えてしぶとく生きた。仕事をしながらの実家通いはなかなか大変で週に 3 日だけ。仕事で遅くなるときは泣きそうだが、夜の散歩はなかなか楽しい。母に躡けられたクロはリードもなく一緒に歩く。月夜の晩に影二つ、離れたり近づいたり。昔話みたいではないか。仕事を退職して実家通いもラクになった。今年冬、荒い呼吸をするようになり動物病院で心筋症と言われた。薬をのませることになった。猫に薬？どうすればいいの。ひざに抱えて？いすに押し付けて？病院の看護師さんは「猫は舌の付け根にいれてやれば自然に飲み込みますから」と簡単に言うが、猫は恐怖の形相。「今まで優しくしたのになんでいじめるの」と猫は言う。泡を吹いて吐き出すこともある。怖い。「吐き出しちゃだめでしょ。あんたこれのまないと死んじゃうんだから。だめったらだめ！のみなさあい！」と叱りつける。

何度も失敗してのませるのにちょうどいい台の高さが分かった。そしてもう決して叱らないことに決めた。ただでさえ嫌な異物を口に放り込まれた上に怒られては恐怖増大だね。どんなにのめなくても、「よしよし頑張ったんだね。」何とかのめたときは「すごいねえ。上手だねえ。」とホメホメ作戦。猫は薬をのんだ後、数分呆然とする。それから机の下やどこかの隙間に入り込んでしばらくの間は怒っている。日ごろも私と目が合うと、警戒の目つきになる。「また嫌なことするでしょ」と。薬が変わり個数も増えてますます難しくなった。ホメホメでは限界がある。特にのみにくいのが抗血栓薬。人間用の薬を 4 分の 1 に割ったもので、断面がスゴク苦いらしい。よく吐き出す。いったいどうしたら…。悩んだ挙句ネットで調べた。あるある。親切な動画まで。右手薬指で猫の口を開けて左手で顔を挟んで思い切り上に向ける。つまんだ薬をのどの奥に落とす。これを何度も見て実践。ついでに動物用オブラートに包むといいという情報もあったので試した。なかなか良い。

猫は対抗策を考えるらしい。口を開けさせようとする。「いやだよ。せんで」と私の右手を自分の手で押さえてさえぎる。母に躡けられたからか、元々の性格か、爪をたてたり噛み付いたり暴れたりはない。顔を上に向けようすると首にぐっと力を入れて向けさせまいとする。薬を口に入れられた後はペロをむにゃむにゃ動かして薬を前に押しやりそのまま吐き出す。薬を入れられた瞬間、早業でペロで飛ばして口から出すこともある。後で見ると、のませたハズの薬が転がっていることになる。オブラートもうまくいったのは数回まで。次々と繰り出される猫の対抗策で同じことを何度もやっていると、はうまうまかなくなる。



あるとき動物病院の看護師さんが「ちゅーる」がいいと教えてくれた。「ちゅーる」は猫用のおやつで柔らかい流動食のようなもの。クロは神経質で同じ銘柄のフードしか食べない。無理と思っただが、スーパーで安く売っているのが目に入ったので、だめもとでやってみた。

薬をちゅーるまみれにして口の中に放り込む。食べるではないか！難なく。今までの苦勞は何だったの？これは素晴らしい！お互いにストレスがないなんて！「ちゅーるちゅーる♪」と歌いながら薬をのませにいく。だがすぐにこれにも対抗策を考えたらしい。ちゅーるだけ食べて薬は吐き出す。それからちゅーるごと吐くようになった。これもだめか…。

今はスタンダードに動画どおりにのませている。顔を上に向かせる角度が足りなかったり、タイミングを間違ったりするとうまくいかないこともあるが、私も、多分猫も少しは慣れてきた。それでも朝晩のお薬タイムはやっぱり気が重い。

母の遺言を守ってクロを「死なせないように」している。でも世話をするのももちろん遺言のためだけではない。そのうち向こうの世界に行ってしまうだろうが、それまでは命を全うさせてやりたいと思っている。ということで、大好きな旅行は封印。数日に一度は呼吸困難になるので、山にもめったに行くことができない。毎朝50分のウォーキングは欠かさないようにして、旅行や山歩きができる日に備えている。



【2018年5月 霧立越 杉越にて】

上高地（徳澤園）で

関西支部 昭和56年文理卒 森脇 まなみ

今年の秋、新島々駅から乗ったバスに揺られて徐々に深くなっていく山谷の景色を眺めながら、上高地に行くのは何回めになるのかなあと思い返していた。

初めてその地を踏んだのは多分 1985 年の夏だったと思う。山大ワングル部で知り合った夫と、仕事か忙しくても夏の登山は続けていて、あの年は確か中房温泉から合戦尾根を上がり、燕岳～大天井岳～常念岳～蝶ヶ岳を歩いて上高地に下ったはず。燕岳付近の別世界のような風景や、バテて大天井岳のピークは踏まらずに休憩していたこと、何度も偽ピークに騙されて、この山は大嫌いって思った常念岳。下山して祝杯を上げていたら日航機が御巣鷹の尾根に墜落したニュースが飛んで来た。強く思い出に残っていることが多いからなのか、初上高地の記録も記憶も感動も不確かなのが情けないというか、寂しい。

次に行ったのは1990年。まだ1歳にならない二女を名古屋の実家に預けて、夫と3歳の長女と3人で徳澤園でテント2泊。娘は明神池の鴨を見て喜んだりテント生活を面白がったりしたけど、二日目に長堀山往復、三日目になるとさすがに歩くのにも飽きて足を動かさそうとしない。馬の鼻先にニンジンではないけれど、かっぱえびせんを一本見せては「ここまで歩いたら、あげるよ」作戦を繰返し繰返し繰返し、家に帰ったらジエニーちゃん（着せ替え人形）を買ってあげるという約束もさせられて、やっとこさ上高地バスターミナルまでたどり着いた。まあ、親の趣味につきあってもらったんだからなー。



今再びテント泊が流行っているけどそれは一人用の小さなテントが多い。当時の写真を見ると徳澤園の広い芝生広場には大きなテントがびっしり。人もたくさん写っていたけど、おしゃれな山ガールは、いない。

2011年10月にはワングル卒部30年の同期会があった。私は自分の勝手な理由で3回生になったときにワングル部をやめてしまったんだけど、そんな私をも誘ってくれた。心苦しかったけれどとても嬉しくて、出席することにした。皆の好意に甘えて同期ではない、先輩になる夫も一緒に上高地、徳澤園に行った。今思えばあの時に後輩のみんなと会えて良かったんだろう。卒部＝卒業して30年にもなるなんて感じられないくらい、皆あの頃の風貌雰囲気そのままだなあとしみじみ。同期の人たちの好意でまたつながりを持てるようになったことを、本当にありがたく思っている。

頑丈というイメージだった夫が60歳を目前に他界したとき、それから今に至るまでも、同期の仲間や、先輩方、夫の後輩の方たち皆さんに私は励まされ支えられてきたなあ。改めて、ありがとうございます。



そして今年9月13～14日は初単独テント泊、なんとも大げさな言い方。登山を絡めないで、ソロで、上高地目的で行く人ってあまりいないだろうに、物好きだなと思われるかもしれないけど、これには訳があって。買ってしまった、一人用テント。その性能を確かめたくてと、さりげなく自慢していたりして。

大正池でバスを降りて、景色を楽しみながらテント場までのんびりハイキングと考えていたら、なんと外国人団体旅行客の多いこと。夏休みは終わり、平日で、紅葉はまだまだという時期なのに。上高地は観光地であったと再認識させられた。わき目もふらずにせかせか歩いたから徳澤までコースタイム2時間のところを1時間半で到着—またさりげなく自慢—、懐かしいテント場は広々としていて好きな場所にテントを張れる。空模様が怪しかったので、少々の雨ならば枝葉が防いでくれるだろうと大樹の下に設営した。夜中にやっぱり雨は降ってきて、それもかなりのザーザー降りで、芝生のど真ん中のテントの人は可哀想にと思いながら寝ていた。明け方に雨は上がり、明神岳もきれいに見えるようになった。近くの人々は撤収を始めた。でも私のテントはいつまでも雨粒がシートをたたく。それも雨降りの一定のリズムではなくて、ポタポタポタポタポタポタポタ、またそれが気になって落ち着かない。樹の下の設営は間違いだったの?! テントの性能はまあ良かったけどテント泊初心者だなあ。



前日の夕食は徳澤園で岩魚焼定食をいただく。客は私独り。もうストーブに火が入っていて、それが嬉しい。7年前の同期会はここにテーブルを並べてにぎやかに食べて飲んで話して、楽しかったなあ。そういえば、あのとき皆でメドックマラソンに行こう! と氣勢を上げていたけど、なにもフランスまで行かなくても、塩尻あたりをワイン片手に走り回ってもいいのではないかなと内心思っている。どうでしょうー。

2018年高山登頂記

東京支部 昭和47年卒 文理 恵谷 浩

(1) 富士山

台風19号が去り快晴になるが、次の20号の四国・近畿地方への上陸で23日には崩れるという天気予報の下、毎年続け15回目となる日本百名山の一つである富士山への登山を途切れさせてはならずと決行しました。しかし今年の富士山は、これまでに経験したことのない天国と地獄を味わわせられました。

8月22日(水): 5:15 自宅発。バスで富士宮口五合目 2380mに 10:25 着。11:00 登山開始。11:25 六合目 2490mの宝永山荘に着。ここから2008年に皇太子殿下が富士山に初登頂し、人気になったプリンスルートに入った。宝永山を経て御殿場ルートに移るルートである。1:55 宝永第一火口。13:10 宝永山山頂 2693m。これからは快晴の下、白波立つ三保の松原、紺碧の駿河湾、伊豆半島、さらに遠く相模湾、うっすらと三浦半島まで望まれた。このようなことは初めてで、大感動。馬の背を経て、御殿場ルートの大砂走りを上り、15:55 七合四勺 3050mのわらじ館に着。夕陽に照らされる山中湖と金時山など箱根の山々、大山、檜洞丸など丹沢の山々、伊豆半島、遠く筑波山まで望まれた。夕陽による影富士が次第に高くなる様子も、天国。



【11:26 三保の松原(中央上方)と駿河湾】

【17:28 宝永山(中央)、伊豆半島(右遠方)】

【18:11 夕焼け空と影富士】

8月23日(木): 4:20 起床。5:00 出発。気にかかる天候は、昼まで晴の予報のとおりでご来光を迎え、山肌が太陽の光を受けて赤く輝く現象(モルゲンロート)も眺めた。しかし、登るにつれ霧が濃くなり、8:04 御殿場ルート山頂の銀明水に到達したときには濃霧となり、恐れていた風が強烈。雨も。8:11 富士宮ルート山頂 3715m・浅間大社奥宮。売店の人が吹き飛ばされそうな軒を補強したところで、デジタルカメラのシャッターを押してもらった。早く下山するよう忠告を受ける。

剣ヶ峰 3776mは諦めて、お鉢を3分の1位巡って須走ルートの山頂 3720m・久須志神社に行き、予約をしている本八合目 3370mにある胸突江戸屋を目指すこととする。風が強くと時々歩けず立ち止まりながらも8:46 久須志神社に到達。誰もいない。直ぐに下山開始。風が次第にさらに強烈に。暴風雨の中を放射線状になった道を下る。風に向かって歩くと吹き飛ばされるので、腰を大きく屈め、それこそ軍隊のほふく前進のような姿勢となるが、風が強くなるとズズと押し返される。手はかじかんで小指が全く利かず。あー、このようにして凍死するのだろうか。いや、まだ寒さと疲れで眠るほどではない。強い風ときは腰を屈めて進むが、風が弱まると絶好のチャンスと無我夢中で小走り下り、足を滑らせて何度も尻もちをつく。このようなことを繰り返しているうち、もんどり打って前側に転倒、一回転してしまった。頭を岩に打ち付け激痛。脱げた帽子を拾い、手袋を脱いで触っても幸い切り傷ではないよう。無心となり、さらに下ると10:55 御来光館。久須志神社から



【5:03 ご来光(左に山中湖)】



【8:12 富士宮ルート山頂3715mにて】

本八合目 3370m・胸突江戸屋までを45分と計画していたが、八合五勺・御来光館までを2時間10分もかかっており、ほふく前進が如何に豪風雨の中で行われたかを物語る。御来光館は筆者1人の貸切り状態。

8月24日(金): 4:30 起床。風雨が強く、もう一泊。11:00 富士スバルライン五合目から電話があり、下山しない人を探している様子。また、五合目は入山禁止となっているとのこと。今日も筆者1人の貸切り。

8月25日(土): 4:30 起床。ご来光。6:30 風は少しあるがすっかり雨が止み、さあ下山開始。6:52 本八合目 3400m・トモ工館。7:30 皇太子殿下が宿泊した八合目 3270m・江戸屋に着。天候の回復を待っていた人達が次々と登って行く。親の前を飛びように登る小さな子供も。9:25 七合目 2920m・太陽館。11:10 本六合目 2620m・瀬戸館。低木樹林帯の中を下り、12:50 須走口砂払五合目 2230m。高木樹林帯の中を下り、13:44 古御嶽神社で、魔の山頂を脱出し下山出来たことを報告。13:53 須走口五合目 1970m。



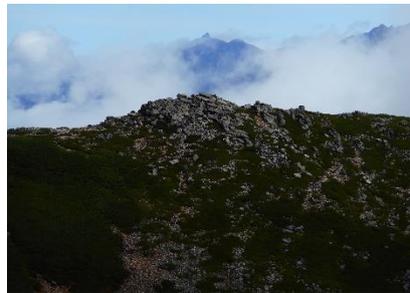
【6:53 トモ工館からの眺望江戸屋と雲海】

(2) 乗鞍岳

広島県立福山工業高校機械科昭和37年卒業生3名が日本百名山の一つ北ア・乗鞍岳の主峰剣ヶ峰 3026m に登頂しました。昨年のクラス会で、高齢で高山の経験がない者でも登れる山・行程として、バスで行ける所として日本一の高所にある乗鞍畳平まで行く乗鞍岳を選び、皆に参加を呼びかけた。5年前にクラス会で参加を募った古希記念富士山登頂のときの6名に比べ半減し、重ねた齢を感じさせられました。

9月10日(月): 福山市からの2名と松本駅で落ち合い、鶴ヶ池の横の畳平 2700mにある白雲荘に16:30 着、宿泊。やはり日本一高所のヒノキ造りの風呂に入浴。夕食は明日の登頂に向け、缶ビールで乾杯。夜は満天の星空で、麓の灯りがある富士山より鮮やかに星数が非常に多い。

9月11日(火): ご来光とモルゲンロートを眺めた後、7:00 登山開始。7:35 富士見岳 2817m。天候良好で遠望。不消ヶ池や夏スキーができる雪渓などを望みながら進み、8:30 肩の小屋着。遠く雲間に槍ヶ岳の穂先、さらに槍穂高連峰が望まれ感動。9:40 蚕玉岳 2979m。10:42 感激の剣ヶ峰山頂に到達。山頂からも雲海上の北ア・槍ヶ岳や薄らと中央アルプスを望めた。12:00 下山開始。東大旧コロナ観測所に寄ったり、お花畑に行くなどし、16:55 白雲荘着。夕食、缶ビールで登頂できたことを喜び乾杯。



【7:39 鶴ヶ池(中央)と鳥帽子岳、北ア(遠方)】【9:17 雲間の槍穂高連峰(中)と常念岳(右)】【10:42 剣ヶ峰山頂3026m(右筆者)】

9月12日(水): 8:05 発のバスに乗り、車窓から雲海上に浮かぶ北ア、中央ア、南アの遠望を楽しみながら下り、8:55 乗鞍高原観光センター着。ふと見ると何んと5つ葉のクローバー。バスを乗換え新島々駅。

(3) 大菩薩嶺

山口大学文理学部物理昭和47年卒業生1名と一緒に、山梨県にあり日本百名山の一つである大菩薩嶺 2057m、中里介山の大長編小説・大菩薩峠で有名になった大菩薩峠に登りました。

10月8日(月、体育の日): 10:05 上日川峠 1840mに着、登山開始。11:00 福ちゃん荘 1720m。唐松尾根を登り、12:30 に雷が落ち表面に炸裂したかのような巨大な岩の雷岩。霧ともやで富士山などの遠望はなくて残念。12:47 霧の一瞬の晴れ間に大菩薩湖が姿を見せたのがせめてもの幸い。老若男女多くの登山者。13:30 大菩薩嶺山頂 2057mに到達。13:59 雷岩に下山。ここからずっと富士山などの展望が良いはずだが、雲と霧が漂う中を大菩薩峠へ向けて下る。幻想的な景色を楽しみながら笹原を下り、14:35 賽ノ河原。大小無数のケルンが立っている。15:05 大菩薩峠 1900mに着。三界庵、勝緑荘の横を通り、16:09 富士見山荘。計画よりも1時間遅れて、16:35 上日川峠。



【13:33 大菩薩嶺山頂2057m(右筆者)】【14:19 草原の大菩薩峠への下山道】

故山本充二OB会元会長7回忌 白馬岳登山

関西支部 昭和48年卒 (経済) 上田 功

山本充二氏は、2012年6月17日に62才の若さで逝去され、今年で早くも丸6年が経ち、今夏7回忌を迎えられました。3回忌の2014年夏には小生が一人で白馬岳へ登りましたが（本誌復刻第15号＝2014年12月＝寄稿文の通り）、7回忌の今夏、太起子夫人、長男耕平氏、次男真司氏を小生が案内して計4名で白馬岳へ登り、ご家族の念願を果たすことができました。

日程は、現役のご息が確実に休むことのできる山の日を含む8月11日から13日までの2泊3日。行程は、新山口→神戸→白馬→樺池ヒュッテ→白馬大池→小蓮華山→白馬岳→白馬山荘→大雪渓→猿倉→白馬→往路と、春先に決めました。今回の言わば追悼山行の概要は以下の通りです。

8月11日(土) ご家族が新山口発8時25分のぞみ10号に乗車、小生が新神戸から同乗。名古屋、松本、大町経由白馬までJRの旅。4名で乗ればバス代並みと白馬から樺池高原までタクシー、ゴンドラリフト「イブ」とロープウェイを乗り継いで、17時10分に樺池ヒュッテへ。(泊)

本格的登山デビューのご息の山小屋泊第一夜が樺池ヒュッテでは、安直に山小屋とはこんなものと誤解されかねないので、ここは特別な”山小屋”であることをクドクドと説明。

8月12日(日) 山小屋としては遅い7時からの朝食後、7時20分に樺池ヒュッテを出発。先頭が小生、太起子夫人、真司氏、耕平氏の順でパーティを組み、後ろから他のパーティが追いついてきたら道を譲るので、耕平氏に後続に気を配って貰うこととし、スローで着実なペースで登ることを心がけた。

ゆっくり登っても停まらなければ最後は亀の方が兎より早いものですと、蘊蓄を垂れながら樹林帯を登り天狗原まで2ピッチ。木道を経て、その先は標高差200メートル以上の険路の急登。右側の雪渓の端を喘ぎながら登り、途中一ヶ所で雪渓を横切って白馬乗鞍岳台上へ。大きなケルンのある山頂で昼食。ここから白馬大池までは30分強ながら、マップの注記通り、安山岩のゴロゴロした道で歩きにくいことこの上ない。白馬大池小屋から小蓮華山への登りは、NHKの坂の上の雲のテーマ曲の背景映像に使用されたあの稜



【白馬岳山頂にて 夫人の手には山本充二氏の写真】

線の道だ。20分毎に立ち休憩を入れて60分ピッチ2本でほぼコースタイム通り山頂へ。目指す白馬岳はガスの中で残念ながら眺望は得られない。三国境へのなだらかな稜線の道を経て、白馬岳への登りの途中、ガスの中であつたればこそ雷鳥の親子に遭遇。初めての北アルプスで雷鳥の英姿を存分にカメラに納めることのできたご息は、とても幸運であつたと言えよう。いよいよ白馬岳だ。頂上直前で後ろの夫人から、遺灰を「少し持ってきているんですよ」と明かされた。4年前と同じ三角点の周りを小生が示し、水を撒いて整地した後に、他の登山者に気遣いながら目立たぬように静かにご家族により遺灰を納めて頂いた。尚、小生が持参した缶ビールを紙コップに分けて一口ずつながら4名で献杯し、白馬岳登頂を祝し山本さんに報告したことは言うまでもない。名残りの尽きない白馬岳山頂を後にして、短い下り道ながら捻挫したりせぬよう疲れた足下に気を配って歩を刻み、16時55分に白馬山荘へ。(泊)

8月13日(月) 北アルプス北部のみに局地的に雷雲がかかるという笑えない天気予報が出ていた。雨具を着けて6時40分にガス小雨下の白馬山荘を出発。お花畑から避難小屋前を経てひたすら下っていく。途中ガスが飛んで大雪渓が眺望できる地点で小休止し、大雪渓を登高する登山者の蟻の列を視認。まだまだ下っていかねばならない。大雪渓上部取付きで軽アイゼンを装着して大雪渓を下り始める。この頃から頭上の雲間はゴロゴロと轟き、大粒の降雨が雪面を叩き始めた。登高者と交差する度に登路を譲ること少なくなく、又、大雪渓雪面が思いの外固く、より慎重に下った為にコースタイムを大幅に超過して大雪渓下部に至り、軽アイゼンを脱着。雨中の歩行は続き、白馬尻小屋を経て猿倉までは疲労感が極度に増し、足の運びが極度に遅

くなり、予定していたバス便を逃した。猿倉で雨具を脱いで一息ついてからタクシーを呼び、小日向の湯で慌ただしく入浴。汗を流してござっぱりしてから再びタクシーで白馬へ。白馬発14時37分あずさ26号に予定通り乗車して家路に着いた。

省みると、直前の7月に超猛暑日が続いた為、適切なトレーニングを怠った所為で足の筋力が弱っていたことは否めない。それでも何とか当初の目的を達成して無事下山できたことを雲上から見守ってくれた山本さんに感謝したい。

【下山後の猿倉にて】
(2018年8月 記)



近況報告

山口支部 昭和55年卒 工学部 三國 彰

今年の3月、山口県産業技術センターにおける38年間の勤務の生活にピリオドを打ち、4月以降は同センターにて再任用職員として常勤の勤務をしています。年金生活となるまでの数年の間は現在の仕事を含め、仕事を続けたい意向です。退職後も現役時と比較して勤務時間はあまり変わらないのですが、責任感や疲労感からはかなり解放されています。完全なストレスフリーとはいきませんがゆとりを持って仕事をしています。今年から二、三年は今の職場で業務を行いながら少しずつ趣味等に費やす時間を増やせたらと思っています。今回の近況報告では退職後の近況報告（野菜作りと趣味の魚釣り）、OB会活動状況（主に山口支部活動）について報告します。

1) 野菜作り

4年前から、畑の有効利用のため、少しでも家計の足しになるようにと始めたのが野菜作りです。実家の畑の芋の栽培に加え、知人の土地を借り、細々ですが野菜づくりをはじめました。最初の年は土づくり、棚の作製等慣れない面もありましたが、昨年頃から要領を得て少しずつ収穫が増えてきました。



今年は夏野菜に関しては各種野菜とも好調でほぼ自給自足の状態でした。（自然の恵みに感謝しています。）土づくりとか水遣り等たいへんなこともあります。手を加える程、収穫の際に大きな喜びが得られます。今後もいろいろな種類の野菜作りをしたいと思っています。

2) 釣り

釣りはかなり前からしてきましたが最近仕事帰りの夜釣り（エサ釣り）がほとんどです。シーズンには2週間に一度（大潮がくるたびに）夜釣りをしています。釣り仲間と長年ともに釣りをしてきましたが、釣りを始めて以来、ボウズの日も含め、い



つも釣果の差をつけられていましたが、今年は、道具や仕掛けに力を入れているせいか秋になって大漁が続きました。(釣りの技術も向上?) 最初はグシやチヌ等の大物釣りをめざしていましたが、メバルは人気のある魚で食べても美味しいのでメバル狙いに徹しています。たまにメバル以外の大物も釣れますが、やはり大



物が釣れた時の気分は最高です。(7月には42cmのチヌを釣り上げました。久しぶりの大物で釣り上げるのにかなり時間がかかりました。(写真左)) 今後は大物のサイズの記録更新、メバルの数の更新をめざします。またルアーによるメバル釣りやイカ釣りにも挑戦してみたいと思っています。

3) OB会活動の状況

OB 通信なので少しは山登りに関する近況も報告する必要がありますね。残念ながら、最近では本格的な登山はほとん

ど行っていません。しかしながら山口支部の活動を通して県内の山々の登山やトレッキングにはできるだけ参加するようにしています。支部活動の状況について少しだけ報告します。

(山口支部の活動)

山口支部では県内、近県の山登りやキャンプ、島めぐり等のイベント活動で交流を深めています。昔登った山口県のを登ると現役時代の活動を思い出します。また山口県および近県にはまだ登っていない山も多くあり、毎回イベント企画を楽しみにしています。秋のイベントの登山(吉母富士:「本州再西端を巡る旅」)では日頃運動をさぼっているせいか、少し登っただけで息がきれてしまいました。(参加者一同、同じ様子だったので安心しました。) 今後も山口支部イベントや OB 総会の活動を通して山登りやトレッキングができればと思います。

(同期会の計画)

来年、退職を機に同期(S55)のメンバーと同期会を計画していますが、連絡をとり、相互に各支部主催の総会にも参加して活動ができればと思っています。(来年退職の年を迎えるS56卒のOBとも合同で同期会をする案もめています。) 同期会の開催の際には、同期OB(非会員)のOB会勧誘ができればと思っています。

6. 現役報告

2018年夏合宿報告

今年は8月21日~27日の期間で予定を立て、北アルプスの常念岳、大天井岳を経て槍ヶ岳を縦走する夏合宿に、それぞれ5人のメンバーからなるABCの計3パーティーで挑戦しました。(15人のうち、2年生は7人、1年生は8人)

アプローチ

21日 お見送りに来てくださった先輩に励まされ、湯田温泉駅を出発しました。16時間かけて、談笑や休憩を挟みつつ、鈍行を乗り継いで移動しました。メンバー全員が落ち着いて行動を取れたため、特にハプニングもなく、予定通り

PL 理学部2年 三和大地



に松本駅に到着しました。その後は松本駅周辺で各自夕食を済まし、駅の近くのカラオケボックスにて就寝しました。

1日目

22日 バスで一ノ沢登山口まで移動し、登山を開始しました。1日目は目的地を常念岳としていて、一ノ沢(標高約1200m)から常念岳(2857m)まで登る傾斜の急なコースですが、水場が豊富なコースであったため、水分には困ることはありませんでした。また、この日は天気にも恵まれ、安定して1日晴れていたため、とても気持ちよく登ることが出来ました。

パーティーごとに休憩を取りながら、昼に全パーティーが常念小屋に到着し、3000m級の山々とその先に見える槍ヶ岳を見ながら昼食をとりました。1年生は初めて見る世界を堪能していました。昼食後は常念岳の頂上まで登り、しばらく頂上からの景色を眺めた後、各パーティーでエッセンを行いました。夜が近づくと、雲1つ無い空のせいで冷え込みましたが、何も遮る光が無いので、素晴らしい星空を見ることが出来ました。19時までには全員が就寝しました。



2日目

23日 本来であれば、常念小屋を出発して大天井岳へと向かうのですが、アプローチ前から発生していた台風がちょうど北アルプス周辺に来ること、山の天気予報が急な天候の悪化を知らせていたこと、今回のルートが常念小屋からエスケープするには来た道に戻るしかなく、進んでしまうとしばらく下山が出来ないルートであり、危険を伴うことから、急遽2年生で話し合い、非常に悔しい決断ではありましたが、来た道に戻って下山することを決定しました。決断後はメンバー全員とても迅速に行動が出来たため、余裕を持って下山を開始出来ました。



下山ではあまりの傾斜の急さに驚きましたが、同時に自分達がどれだけ急な斜面を登ってきたかを体で感じる事ができ、悔しさの中にも達成感がありました。道の途中では朝日を見ることもでき、山にいる間は終始天気に恵まれた合宿となりました。一ノ沢登山口へ到着後は、手配したバスで松本駅へ戻り、解散しました。

今回の夏合宿では、台風の影響で1日目に下山してしまうという異例の結果になってしまいましたが、安全が第一であるという考えが功を奏し、台風の影響を受けることも、怪我人が出ることもなく、夏合宿を終えることが出来ました。1年生も例年より女子が多いことから、体力面の心配もありましたが、真面目に厳しい練習をこなしていたおかげで、しっかりとついてきてくれました。また、1年生のメンバー同士でのコミュニケーションや気遣いも見られ今後のワンダーフォーゲル部を支えていく存在として、頼もしく見えました。また、今回の合宿に協力して下さった先輩方、本当にお世話になりました。

今年の8月23日から27日にかけて、立山にて夏合宿を行いました。今年は1年生3人、2年生2人の計5人で挑みました。

アプローチ1

当日の早朝、1年生3人は先輩に見送られ湯田温泉駅を出発し、新山口駅にて2年生と合流しました。今回の合宿は、7月の西日本豪雨の影響でJRが止まっている区間があったため、電車とJR代行バス、新幹線を利用して、金沢駅を目指しました。途中、電車内では台風の影響により雲行きが怪しくなっていく空に不安を感じつつ、車窓からの風景を楽しみました。夕方、姫路駅に到着したとき、台風20号接近に伴い本日のJR神戸新快速とJR北陸本線の運休の知らせを聞き、急遽新幹線で名古屋駅まで行き、そこから電車で高山駅に行くという予定に変更しました。高山駅に到着したのは深夜近くでメンバー全員ヘトヘトな状態でした。この日は、高山駅にて一夜を明かし、始発の電車を待ちました。

アプローチ2 1日目

この日は、台風の影響で風が少し強かったけど、高山駅から通常通り電車が動いていることに安心しました。高山駅から富山駅までは、電車が途中徐行運転で運転が危ぶまれましたが、無事富山駅に到着することができました。富山駅からは電車とケーブルカーとバスを乗り継いで、室堂ターミナルに到着しました。ケーブルカーに乗ったとき、これから立山に登るというワクワク感でいっぱいでした。室堂ターミナルは、気温が15℃でとても涼しく感じました。室堂ターミナルから雷鳥沢キャンプ場に向かう途中は、地獄谷から火山ガスの独特なにおいがしました。キャンプ場に到着後は、皆でウインナーを焼いて標高2300mでの景色を堪能しながらホットドックを作って食べました。夕ごはんは、カレーを作り、就寝しました。



2日目

この日は、一の越山荘へ行き雄山神社、別山乗越に登る予定でしたが、一の越山荘の山小屋に到着した時、非常に強い風と視界の悪さから山小屋で少し休憩をとることにしました。



悪天候にもかかわらず、山小屋には登山者の方でいっぱいでした。天気回復を待ちながら、登山者の方とお話をしたり、ココアをご馳走させていただきました。



なかなか天気の回復が見られなかったため、登山は翌日に見送ることにし、3日目に予定していた行程を行うことにしました。一の越山荘から室堂ターミナルに向かい、そこから黒部アルペンルートを通して黒部ダムに行きました。間近で見る黒部ダムは、大量の水が霧状に放水されており、そのスケールの大きさにとても驚きました。迫力満点の黒部ダムを観光した後、キャンプ場まで戻り、夜はパスタを作って就寝しました。

3日目

この日は、霧が少しありましたが、雨は降っていませんでしたので、前日行えなかった行程を行いました。この日は、偶然にも24時間テレビの収録でイモトアヤコさんが雄山に登ると聞いてパーティー皆が同じ山に

登るというわくわくした気持ちで登山に挑みました。道が舗装された一の越山荘までは、比較的登りやすかったのですが、雄山神社までは、大きな岩が多く、両手両足をフルに活用して登っていきました。登山中は、霧が濃く、なかなか遠くまで景色を見ることができませんでしたが、お昼頃から霧が晴れて北アルプスの壮大な綺麗な景色を一望することができました。

4日目

合宿最終日、朝4時に起床し、テントなどの片づけをして、6時半ごろ雷鳥沢キャンプ場を出発しました。合宿最終日で、メンバーの足取りは、少々疲れ気味でしたが室堂ターミナルまで歩き、そこから、電車やバスなどを乗り継いで富山駅に戻り、11時ごろ富山駅にてパーティーを解散しました。

今回の夏合宿は、パーティーメンバー全員が女子で、私自身、昨年事情により夏合宿に参加していなかったのが心配でしたが、皆怪我無く無事に合宿を終えることができよかったです。私は、リーダーとしてみんなを引っ張るという経験をしたことがなかったので、不安でしたが、合宿では1年生が積極的に動いてくれて、後輩そして同級生に支えられながらPLを務めることができ、とても貴重な経験をする事ができました。最後に安全対策委員会を開いてくださった先輩方、ご助言をしてくださった先輩方、本当にありがとうございました。



7. 事務局長挨拶

経済学部 4年 岡田 陽介

10月20日のOB総会では大変お世話になりました。現役生一人、OBの方々にお会いするということが不安に思っていたのですが、会場では皆様からお声掛けいただき大変楽しい時間を過ごすことができました。この場をお借りして改めて御礼申し上げます。ありがとうございました。

さて、11月も後半に入り今年も夜寒が身に染みるころとなりました。大学生活は残りわずかとなり、別れの季節が近づいていることを皆実感しています。仲間たちとはこの大学生活で得たものを思い返しながらか過したいと思えます。

この一年間OB会で事務局長を務めさせていただき、部活動の歴史やそこで育むことで生まれる絆の強さを知ることができました。会長の古谷様をはじめ、山口支部の方々にはこの一年を通して大変お世話になりました。度々ご迷惑をおかけしたと思いますが、至らぬ私に対していつも温かいお言葉をかけていただきました。本当にありがとうございました。

最後になりますが、この一年間、貴重な体験をさせていただきありがとうございました。不肖ながら今後のOB総会のご発展とご多幸をお祈り申し上げます。

なお、2019年1月からの次期事務局長は以下の通りとなります。ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

次期事務局長 三井大明 人文学部3年生

連絡先 メール yamaguchi.wandervogel@gmail.com

〒753-0841 山口県山口市吉田1677-1 山口大学体育会内 ワンダーフォーゲル部

8. OBの皆さまへのお願い

(1) OB会費の納入について

会費有効年を経過して会費未納の場合は自然脱会となりますので、会費の支払いはお忘れなきようお願い申し上げます。脱会になりますと、以後OB通信の発送等OB会からの連絡が途絶えることとなりますのでご注意願います。

会費有効年は、皆さまの宛名書きに記載していますが、今一度会費有効年を確認され、もし、相違している場合は、会長または事務局までお問い合わせ願います。

【OB会費の納入状況についての問い合わせ先】

次頁・会長宛お問い合わせ下さい。

会費有効年に応じて、鳳翔会新規(再)加入のご案内、会費納入について(お願い)、お知らせ、入会申込書、会則、郵便局払込取扱票を同封しています。新規(再)加入及び入会を継続される場合は、お手数ですが、同封の郵便局払込取扱票にて下記へ納入くださいますようお願いいたします。同封文書は次のようになっていますのでご確認ください。

ア 新規加入の皆さま及びOB会費未納のため2017年までに会員資格を喪失された皆さま

鳳翔会新規(再)加入のご案内、入会申込書、会則、郵便局払込取扱票

新規(再)加入を希望される場合は、郵便局振込とともに、入会申込書を送付いただくか、必要事項を会長または、事務局までメールにてご連絡ください。

【送付先】

郵便番号 753-0841 住所 山口県山口市吉田1677-1 山口大学体育会内
宛先 山口大学ワンダーフォーゲル部

イ 会費有効年が2018年の皆さま

会費納入について(お願い)、郵便局払込取扱票

口座記号番号 01530-0-16050

加入者 山口大学ワンダーフォーゲル部

個人会員年会費 2,000円 (夫婦会員年会費 3,000円)

※ 年会費は、複数年分を一括納入することもできます。一括納入の場合は振込金額を単年会費の複数年倍としてください。個人会員の場合、年会費を1,000円の端数で納入されないようお願いいたします。新規または再度会費を納入される場合は、会費の有効年は納入年からとして取り扱い致します。

(2) OB通信の送付について

OB通信は本来会員の皆さまだけに送付することになっています。

(3) OB通信への寄稿について

事務局では、皆さまからのOB通信の寄稿を常時受け付けています。OB通信への掲載を希望される場合は、会長または事務局長まで原稿を提出ください。なお、OB通信の発行の準備の都合上、原稿の提出期限は次のとおり願います。

なお、OB通信の内容等についてご意見がありましたら、会長または事務局長までお寄せ下さい。

8月発行分 7月中旬 12月発行分 11月中旬

(4) 転居先連絡のお願いについて

OBの皆さまの住所確認については万全を期していますが、OB通信の発送の都度、数通が転居先不明で返送されてきます。その後、お知り合いの方に転居先を確認し再送していますが、OB通信の送付が遅れる原因になっています。転勤等で住所を移転された場合は、速やかに会長または事務局までご連絡願います。

8. 本部・支部役員連絡先

・OB会会長

古谷 眞之助（経・昭和52年卒）

注・ 以下役員連絡先については個人情報保護の観点から、すべて削除しています。OB会に関するお問い合わせ等は、上記連絡先までお願い致します。

・OB会副会長

田村 伊正（工・昭和53年卒）

八谷 孝徳（文・昭和54年卒 会計兼務）

・OB会幹事

田中 秀平（農・昭和47年卒）

石川 忠（教・昭和49年卒）

三國 彰（工・昭和55年卒）

坂田 信一（理・昭和57年卒）

徳田 宏子（教・昭和57年卒）

・OB会事務局長

三井 大明（文・3回生）

・会計監査

平野 展康（経・昭和59年卒）

齊藤 昌彦（農・昭和60年卒）

（東京支部）

支部長 城戸 賢嗣（経済・昭和49年卒）

副支部長 高田 哲生（工・昭和49年卒） 事務局長 秋山 高弘（経済・昭和53年卒）

（関西支部）

支部長 池田 純（工・昭和51年卒）

（山口支部）

支部長 古谷 眞之助（経・昭和52年卒）

（九州支部）

名誉支部長 永沼 嗣朗（経・昭和39年卒）

支部長 龍 純二（文理・昭和50年卒）

事務局長 天野 雅紀（経・昭和61年卒 卒）



編集部よりお願い

皆さんの近況報告、山行レポート、同期会活動、エッセイなどの原稿や写真を募集しています。お寄せいただいた原稿・写真は、OB通信もしくは鳳翔会ホームページに掲載いたします。お気軽にご投稿下さい。また、鳳翔会ホームページもご覧下さい。アドレスは <https://houben-kaisakura.ne.jp/> です。